



消防環境ネットワークニュース

特定非営利活動法人 消防環境ネットワーク 第14号 平成26年6月30日発行

〒105-0003 東京都港区西新橋 2-18-2 NKK ビル4階

TEL 03-5404-2180 FAX 03-5404-7372 URL <http://www.sknetwork.or.jp/>

I 消防環境ネットワークの活動状況

平成25年12月以降の活動状況は以下のとおりです。

1. ハロン技術選択委員会・日本会議

「ハロン技術選択委員会 (HTOC : Halons Technical Options Committee)」の日本会議が3月17日から19日までの3日間にわたり、京都市左京区の国立京都国際会館で開催されました。HTOCは、国連の環境専門機関「国連環境計画 (UNEP : United Nations Environment Programme)」の下部組織であり、「オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書」採択の2年後の1989年にその前身が活動を開始して以来、ハロン消火剤 (ハロン1301、1211、2402の3種類) 及びハロン代替消火剤、消火技術に関する技術的・経済的な調査、勧告、評価等を行っている委員会です。同委員会は現在、共同議長3名、委員16名、顧問役専門家10名の、14か国から合計29名で構成されています。

今回の日本会議は北米・欧州・豪州以外では初めての開催となり、11か国から18名が参加、当消防環境ネットワークが事務局として強力に支援しました。主な議題は、①2014年版HTOC評価報告書 (4年毎にUNEPに報告) 及び進捗報告書 (毎年報告) の内容審議、②将来のHTOC体制の検討、③ハロン消火剤及びハロン代替消火剤・消火技術に関する最新情報の報告等でした。

会議初日には、日本会議開催を記念し「日本のハロン管理」と題して、日本の国家ハロンマネジメント戦略、消防環境ネットワーク、日本のハロン消火剤及びハロン代替消火剤の管理状況についてプレゼンテーションが行われました。このプレゼンテーションに対し、日本の厳格なハロン消火剤設置量の把握手法に関する質問等に加え、「日本のハロン大気放出量は他国と比較して極めて低い点が注目される」、「日本のハロン管理体制は他国の手本となる」等の高い評価をいただきました。



会議中の様子



国立京都国際会館の外観

2. ハロン管理委員会（第9回）

3月24日（月）、東京・アルカディア市ヶ谷にて第9回ハロン管理委員会が開催され、次のような報告や審議検討が行われました。

(1) 報告事項

- ① データベースの構築状況
- ② ハロンガスの供給実績及び回収実績
- ③ ガス系消火剤の登録状況（ハロンガスを除く）
- ④ ハロン1301使用用途別設置量
- ⑤ ハロン消火剤の備蓄等在庫量調査報告（平成24年度）
- ⑥ 放出後処置報告書集計結果（平成24年度）
- ⑦ ハロン消火剤の将来展望に関する検討会
- ⑧ 平成25年度の収支状況

(2) 審議事項（今後の活動方針）

- ① ハロンの確実な回収に向けた取り組み
- ② ガス系消火剤（ハロンガスを除く）のデータベース登録の推進

3. 平成26年度 理事会、通常総会

5月23日（金）、東京・イイノカンファレンスセンターにて第14回理事会及び第9回通常総会が開催され、以下の議案審議を行いすべて原案どおり承認されました。

● 理事会（第14回）

- 第1号議案 平成25年度事業報告書の承認の件
- 第2号議案 平成25年度収支計算書の承認の件
- 第3号議案 平成26年度事業計画書の承認の件
- 第4号議案 平成26年度収支予算書の承認の件
- 第5号議案 任期満了に伴う役員選任の件
- 第6号議案 会長、副会長及び常務理事の互選の件
- 第7号議案 NPO法改正に伴う定款変更の件

● 通常総会（第9回）

- 第1号議案 平成25年度事業報告書の承認の件
- 第2号議案 平成25年度収支計算書の承認の件
- 第3号議案 平成26年度事業計画書の承認の件
- 第4号議案 平成26年度収支予算書の承認の件
- 第5号議案 任期満了に伴う役員選任の件
- 第6号議案 NPO法改正に伴う定款変更の件

● 新役員は、次のとおりです。（平成26年6月1日現在）

理事（会長）	山越 芳男	理事	戸塚 晃
理事（副会長）	橋爪 毅	理事	中井 武
理事（副会長）	木原 正則	理事	白谷 祐二
理事	大谷 英雄	理事	三好 勝則
理事	木村 徹一	理事	山田 信夫
理事	小林 貞夫	理事	山田 肇
理事	*坂山 修平	理事（常務）	柴田 弘幸
理事	進藤 健輔	監事	石山 松男
理事	遠山 榮一	監事	脇 龍太郎

*新任



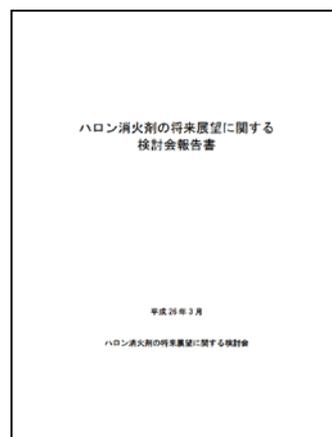
通常総会 山越会長の挨拶

4. 「ハロン消火剤の将来展望に関する検討会」報告書

今後のハロンマネジメント活動に資するため、ユーザー等が抱えている将来のハロン供給に対する不安を払拭しハロンの適切な需給バランスを維持することを目的として「ハロン消火剤の将来展望に関する検討会」（座長：中井 武 東京工業大学名誉教授）を設置し、議論が進められてきました。

その検討会の報告書が完成し、当消防環境ネットワークのホームページに掲載しました。

尚、報告書の「第7章 まとめ」には次のような事柄が記述されています。



第7章 まとめ

本検討会における報告書の要点は次のとおりである。

- (1) 「国家ハロンマネジメント戦略」の「戦略の基本方針」の中で述べられているように、ハロンは国際的にもその使用が認められている消火剤である。
- (2) 消防庁がそのホームページで政府の見解として示しているように、ハロンは特に消火性能に優れ、人体に対する安全性が高いものであるから、必要不可欠な用途には積極的に使用すべきものである。
- (3) ハロン消火剤は 2083 年まで、さらには現在よりおよそ 100 年間、十分に供給することが可能である。
- (4) ハロン消火剤を消火設備に供給、補充等を行う会社でハロンの在庫量が不足しているときは、他社から必要な量のハロンを融通してもらうような仕組みが構築されている。
- (5) ハロン消火剤の完全な代替となる消火剤が開発される見込みはない。
- (6) ハロン消火剤の需給バランスを適切に維持するために、ハロンの新規供給量の増加を目的として、クリティカルユースのあり方の検討、二酸化炭素の使用制限の検討等が考えられるが、これらについては、今後関係部局と調整を図るものとする。
- (7) 「ハロンは生産中止しており『使えないもの』」との誤った思い込みが浸透してしまっていることから、正しい情報を伝えるための広報活動が必要である。

* * * * *



「ハロン消火剤の将来展望に関する検討会」報告書は、消防環境ネットワークのホームページ「TOPICS」をご覧ください。

5. 報告事項

平成 25 年度（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）のハロンの供給及び回収実績、ガス系消火剤の登録状況（ハロンガスを除く）は次のとおりです。

(1) ハロンの供給及び回収実績

供給ガス	202 件、 102, 515 kg	(前年度 126 件、 42, 504 kg)
回収ガス	1, 284 件、 230, 539 kg	(前年度 810 件、 196, 592 kg)

(2) ガス系消火剤の登録状況（ハロンガスを除く）

二酸化炭素	189 件、 274, 637 kg (前年度 217 件、 321, 172 kg)
不活性ガス消火剤 (窒素、IG-55、IG-541)	384 件、 245, 211 m ³ (前年度 295 件、 261, 558 m ³)
ハロゲン化物消火剤 (HFC-23、HFC-227ea、FK-5-1-12)	134 件、 73, 093 kg (前年度 99 件、 73, 515 kg)

6. 幹事会

幹事会の開催日及び主な議事は次のとおりです。

● 開催日

第 51 回 2 月 19 日、 第 52 回 4 月 23 日、 第 53 回 6 月 18 日

● 主な議事

- ・平成 25 年 12 月～平成 26 年 5 月のハロン回収量及び供給量の実績報告
- ・平成 25 年 12 月～平成 26 年 5 月のガス系消火剤（ハロンガスを除く）の登録状況報告
- ・平成 25 年 12 月～平成 26 年 5 月の会計報告
- ・ハロン消火剤の備蓄等在庫量調査報告
- ・ハロンの放出後処置報告書の集計結果報告
- ・ハロン技術選択委員会（HTOC）日本会議報告

II ニュース・インフォメーション

平成 26 年度の国際会議の予定は次のとおりです。

尚、HTOC 会議については、現在のところ未定です。

(1) 第 34 回モントリオール議定書 締約国公開作業部会 (OEWG34)

- ・日時 平成 26 年 7 月 14 日～18 日
- ・場所 フランス（パリ）

(2) 第 26 回モントリオール議定書 締約国会合 (MOP26)

- ・日時 平成 26 年 11 月 17 日～21 日
- ・場所 ケニア（ナイロビ）